



しゅうぶん

秋分（22日）… 暑さ寒さも彼岸までと言いますが…

例年がない厳しい残暑も、4連休を境にようやく収まり、秋の空気に入れ替わったように感じます。草むらの虫の音を聞き、空を見上げて、身近な自然の小さな移り変わりを感じ取れるようになると、日々の生活が豊かになっていくものです。まさに、日々是好日です。

<雷乃収声 かみなりすなわちこえをおさむ 9月22日～27日>

秋分の初候は「雷乃収声」です。入道雲が湧き上がって鳴り響いていた雷が収まり、空には「うろこ雲」が現れる季節です。白露のコラムでは「すじ雲」を紹介しましたが、「天高く馬肥ゆる秋」とも言うように、空を見上げて季節の移り変わりを感じることも多いように思います。身近な自然の小さな営みを感じ取れるようになると、日々の生活の中での楽しみが増してくることを実感しています。

<まさに彼岸の花、曼珠沙華>

彼岸花・曼珠沙華は、この季節になると急に姿を現すように感じているのは私だけでしょうか。茎がすっと伸びて先端のつぼみがふわっと広がると、何とも繊細で艶やかな美しさです。葉っぱは、花が終わった後に出てくるといっても不思議な花です。赤い彼岸花はよく目にしますが、青南幼稚園には、裏庭にちょっと珍しい白い彼岸花も自生しています。幻想的できれいな姿ですね。

<白い花と言えば>

一般的にサルスベリ（百日紅）と言えば、赤やピンクの花を目にすることが多いのですが、青南幼稚園の園庭のサルスベリは白です。9月になって、ふんわりと柔らかい花が咲き、それが少しずつ散り始めると、地面に落ちた花びらに気付いた子どもたちが、砂場での料理作りの格好の材料として集めてはケーキのトッピングやご飯に見立てて遊び始めました。木を揺らして「雪だ!」と喜ぶ姿もありましたが、あまり乱暴に揺らさないように…、優しくしてね。

<オシロイバナ・おしろい花・白粉花>

多様な植栽に恵まれている青南幼稚園ですが、子どもたちがもっと自由に関わることができる自然環境を充実させようと、新たな花壇作りや種まきをしてきました。その成果の一つがオシロイバナです。2学期は、色水遊びを存分に楽しむことができています。そして、最近になって種取りもできるようになってきました。

ところで、花は赤やピンクで、種は黒いのに、どうして「おしろい花」なのでしょうね？



今年も季節に合わせて登場した彼岸花



内側には淡い黄色も見える白い彼岸花



雲梯の奥、ちょっと珍しい白いサルスベリ

